

# オープンガバナンスでひらく 市民参加 V2

2017年11月26日

東京大学公共政策大学院

奥村 裕一

# 3つのオープン（開始順）

- **オープンガバメント（プラットフォーム型行政） 2009年 主語：行政**
- **⇒オープンデータ、市民参加、市民協働のプラットフォームとなる行政**
  - ※オバマの初仕事
  
- **オープンデータ 2009年、2013年、2016年 主語：行政**
- **⇒機械判読性と二次利用可能性を備えたデータ公開**
  - ※エンジニアたちが推進した機械判読形式での公開とオープンソース化
  
- **オープンガバナンス 2016年 主語：市民と行政**
- **⇒自立型市民とプラットフォーム型行政の共演**

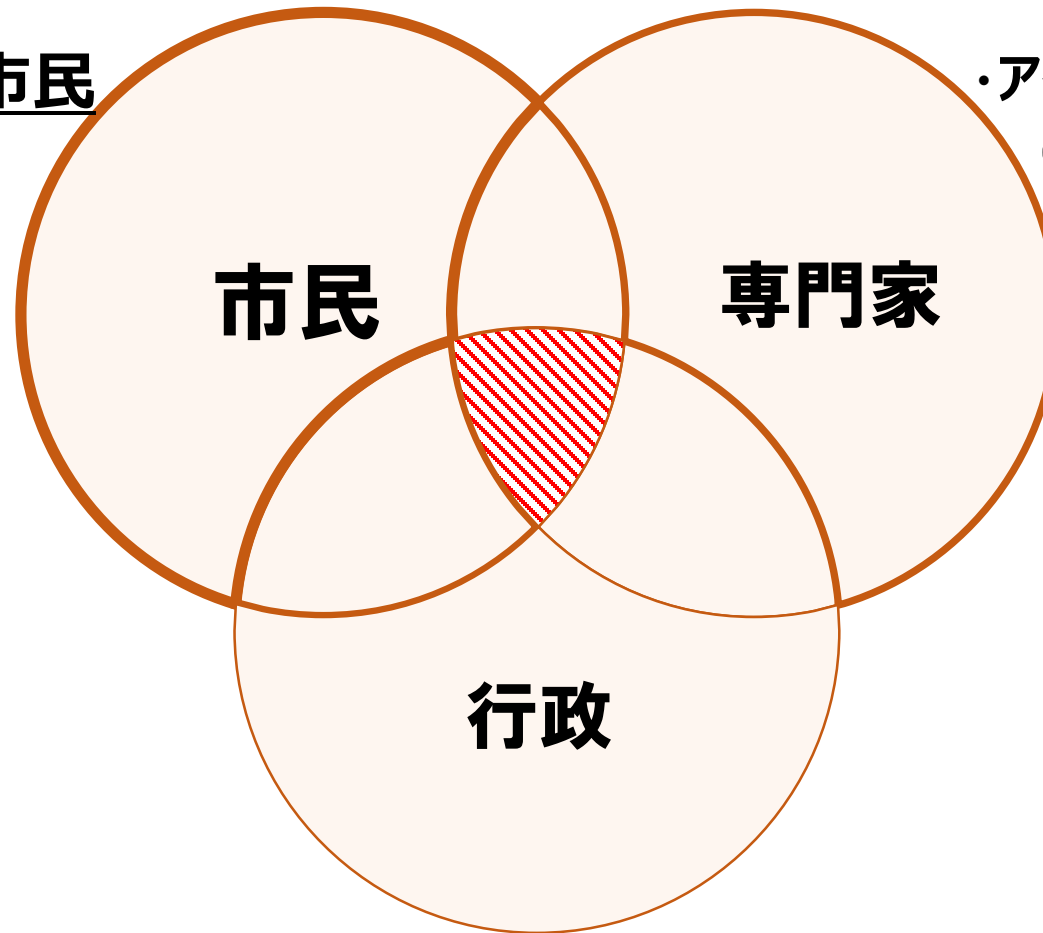
# オープンガバナンス

- 市民が主体的に社会課題に取り組む
- 行政がそれを支えるプラットフォームになる
- デジタル技術を上手に使う civic tech の役割
- データが基礎になる 社会事象分析とアプリのインプットと

# オープンガバナンスの市民参加 V2

## ・アイデアのけん引役の市民

- ・アイデアの発案者としての市民
  - ・アイデアの受け手としての市民
- +
- ・アイデアの実行者としての市民



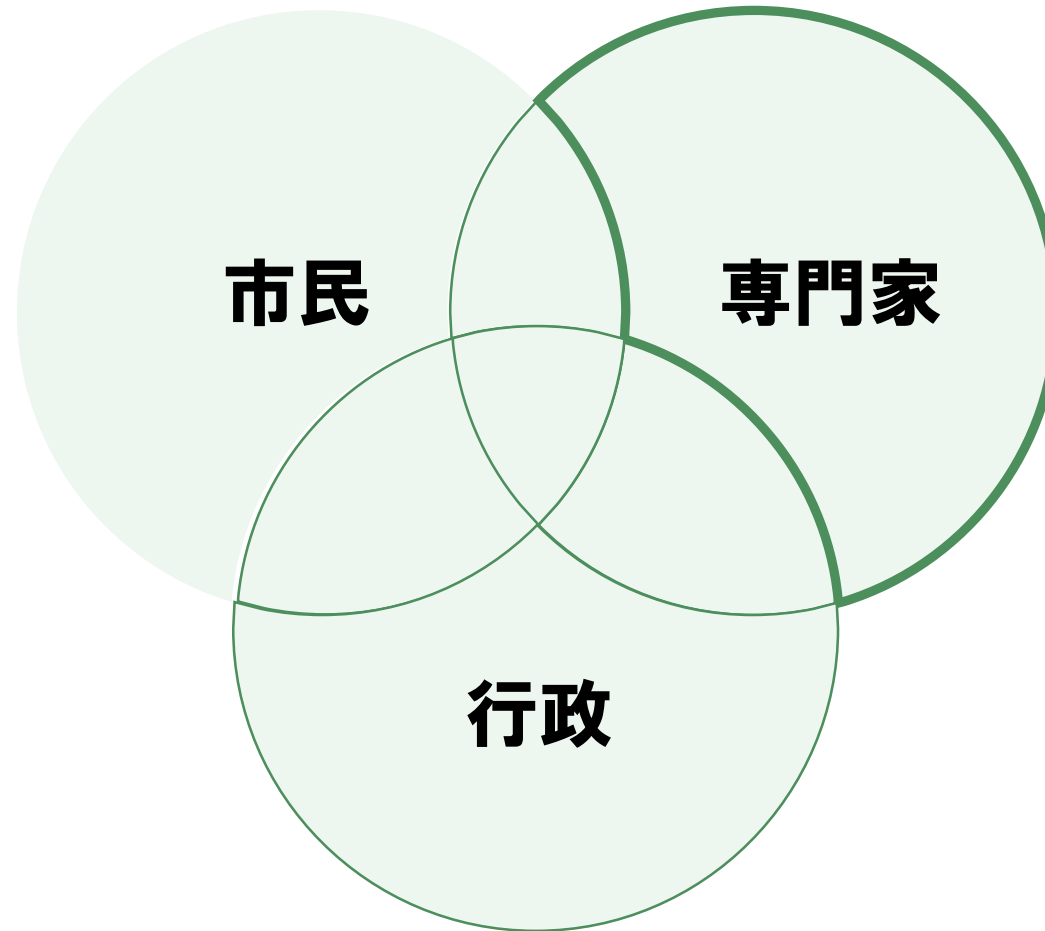
## ・アイデア発案・実現サポート専門家 (CIVIC TEC,分野専門家)

・データ提供、知識提供、場の提供  
によるプラットフォーム機能

# (参考) 社会起業家の市民参加 V1

・受け身の市民

・アイデアの受け手  
としての市民



・分野専門家主体

・アイデア発案・実現

・知識や資源提供

# オープンガバナンスの成功の秘訣

- 「しがらみ」から自由になる ⇒ データに聞くデザイン思考
  - 市民も
  - Civic Tec も
  - 行政も
- 市民が実行に挑戦する ⇒ 市民の自立への挑戦
  - 実施体制
  - お金 人 仕組
- 行政との連携
  - 行政のプラットフォーム化 ⇒ オープンデータと専門家としての知恵

# 行政とオープンガバナンスと市民参加

段階	関係者	A:伝統行政	B:政策ラボ	C:オープンガバナンス	
				政策提案型	提案実施型
		データ	データ	公開データ	公開データ
企画	行政	●	●	プラットフォームとして関与	
	PPP・NPO・企業	△ (場合による)	△ (場合による)	△ (場合による)	
	市民	×	△ デザイン思考の観察対象 (co-design)	● デザイン思考の観察対象 (co-design)	
実施	行政	●	●	●	△ (場合による)
	PPP・NPO・企業	●か△か× (場合による)	●か△か× (場合による)	●か△か× (場合による)	
	市民	×	×ないし△	×ないし△	●
備考	● = 主体 △ = サポート	よくいわれる自助・共助・公助は 実施主体のみによる分類であって本表の分類とは異なる			

# 政策ラボ各種 政策作りにデザイン思考を導入

政策ラボ名	国	概要
● <a href="#">Mind Lab</a>	デンマーク	2002年設立 世界で最も古いラボの一つ。 三省で設立。中立の場の提供。市民・企業との接点。 18-20人のスタッフ。デザイン思考中心。
● <a href="#">Policy Lab</a>	英国	2014年設立。 行政改革の一環で内閣に設置。 デザイン・データ・デジタルの組み合わせ。
● <a href="#">The Lab@OPM</a>	米国	2012年設立。 農務省食糧栄養局などと連携。 中立の場の提供。



# オープンガバナンスの背景

自立型市民とプラットフォーム型行政の協働による

公共サービスのオープンな展開

1. 外国のオープンガバメント／オープンデータ
2. 日本のオープンデータ
3. 日本の市民と行政の関係変化の兆し

# オープンガバナンスの背景1 – 外国のオープンガバメント・オープンデータ

# オバマ政権が始めた オープンガバメント（2009年）



## ・オープンガバメント三原則表明

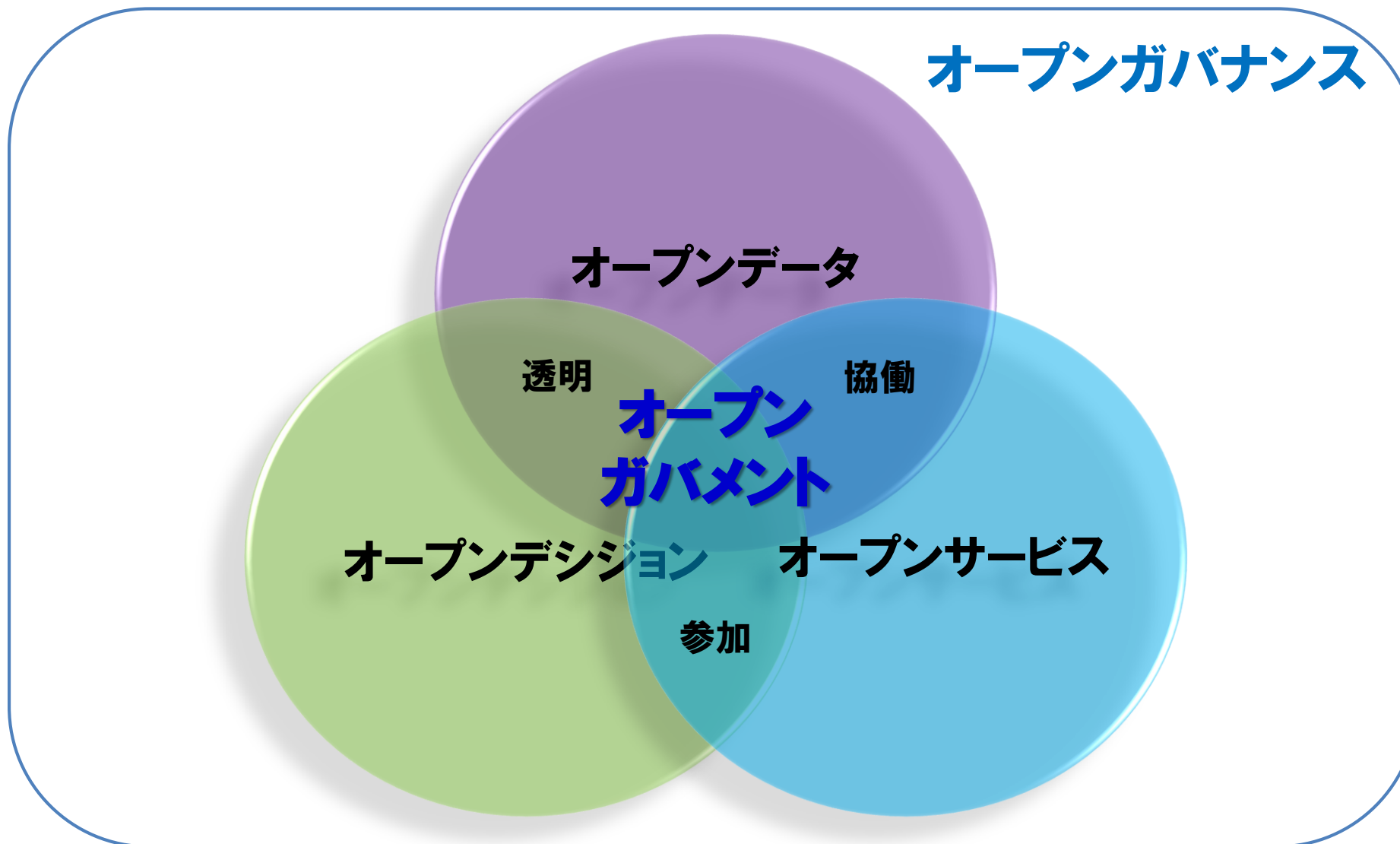
＜デジタル時代の政府＞ 大統領署名の覚書

1. 政府は透明になる→**公共知基盤形成**⇒**オープンデータ**
  - ・ 情報は国民の財産（国民と情報の共有）
  - ・ コンピュータ分析可能な生データ
2. 国民が政策決定に参加する→**市民参加型民主主義**
  - ・ 政策決定への国民参加
  - ・ 知識の広範な収集
  - ・ 〔国民⇔国民〕 ⇔ 行政
3. 国民と協働する→**官も民も公共サービスの担い手**
  - ・ 省庁間 中央/地方 政府/国民の組織の壁を越えた協働

# 米国オープンデータポリシー(2013)

- **公的機関** - 「開放性を前提」を採用することを求める
- **アクセス可能** - 便利で、変更可能で、検索可能で、機械で読み取り可能で、差別的でない
- **明快な記述** - 消費者がその限界と可能性を理解できるように、完全に文書化されている
- **再利用可能** - オープンライセンスのもとで使用制限なしで公開
- **完全** - 可能な限り細かいレベルの粒度を持つ形式で公開
- **タイムリー** - できるだけ迅速に利用可能
- **リリース後の管理** - ユーザーを支援するべく連絡先明確化

# オープンガバメント概念図（欧州委員会）



# オープンデータ憲章（2013年G8サミット）

## ＜公開データの特徴＞

オープンデータを政府/地方自治体の標準設定にする

オープンデータを管理の前提にする

データの品質と量を改善する

タイムリーで包括的で正確な高品質なオープンデータ

誰もが利用できるようにする

無料、無制限

## ＜公開データの目的＞

ガバナンス向上のためのデータの公開

民主的なプロセスを強化する

イノベーションのためにデータを公開する

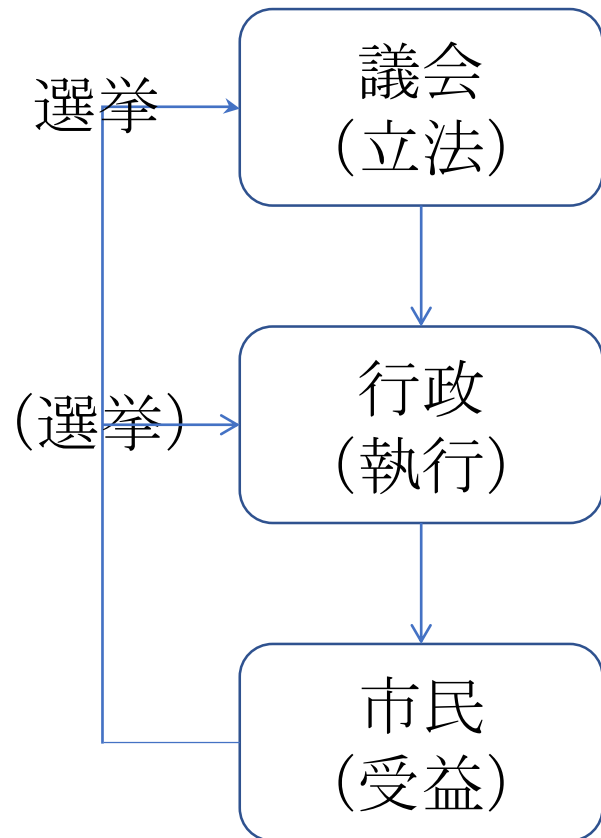
民間部門におけるデータ利用の革新、産業振興

# クローズドからオープンへ

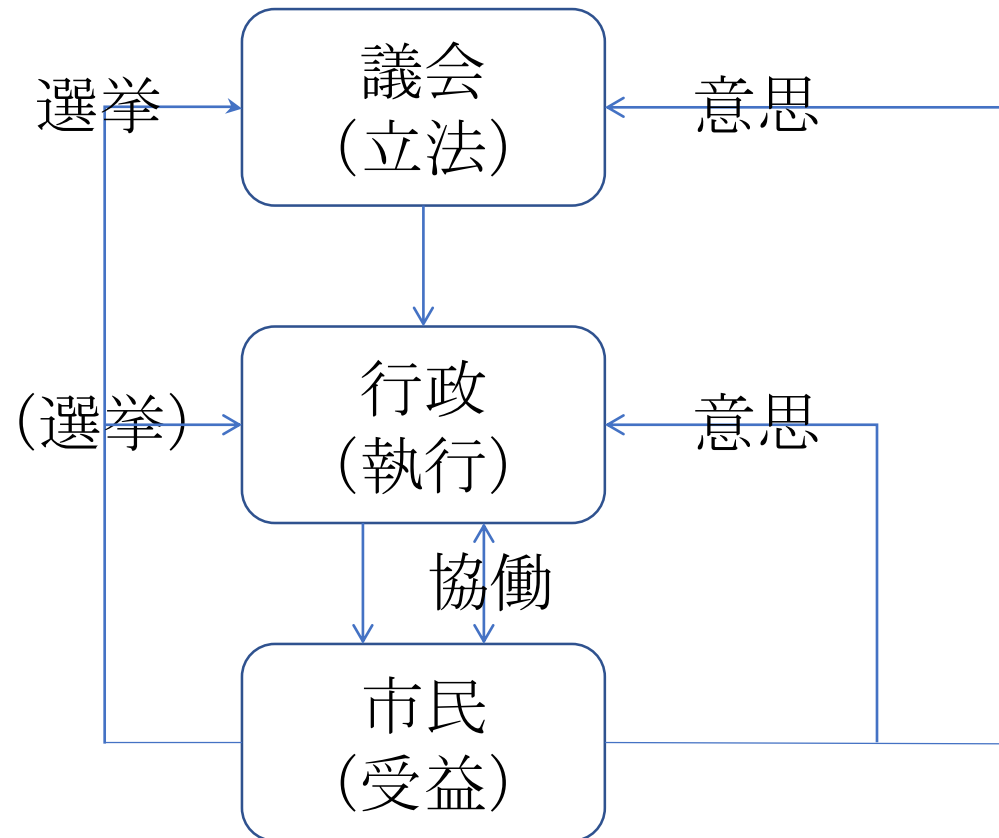
- **行政の歴史的転換期**
  - 君主の時代⇒民主の時代
  - オープンな議会（立法）とクローズドな行政（執行）
  - ⇒立法と行政の違い
  - ⇒政治と行政の違い
  - ⇒オープンな行政
- **地域コミュニティの崩壊と再生**
  - 生活：仕事：家庭：コミュニティ
- **デモクラシー 2.0 の到来**
  - みんなで創る地域社会
  - 行政はプラットフォーム化
- **デジタル社会の恩恵**
  - つながりの制約開放
  - データ、データ、データ

# デモクラシーと政府

## デモクラシー 1. 0



## デモクラシー 2. 0





# オープンガバナンス背景 2

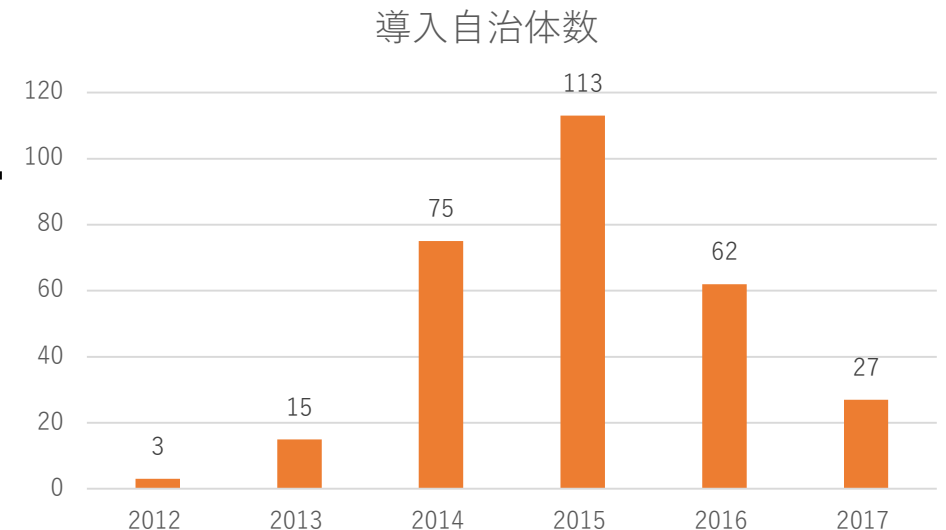
## - 日本のオープンデータ

# これまでの流れ

- 2012年 「電子行政オープンデータ戦略」策定
- 2013年 主要先進国サミットで「オープンデータ憲章」策定
- 2014年 オープンデータカタログサイト本格公開
- 2015年 地方公共団体オープンデータ推進ガイドライン策定
- 2016年 官民データ活用推進基本法

- 自治体の導入 約300 第一号鯖江市

石川県	2016/1/12
石川県金沢市	2013/1/24
石川県野々市市	2013/6/3
石川県内灘町	2013/11/1
石川県白山市	2014/10/1
石川県珠洲市	2014/12/8
石川県七尾市	2015/12/26
石川県能美市	2016/1/4



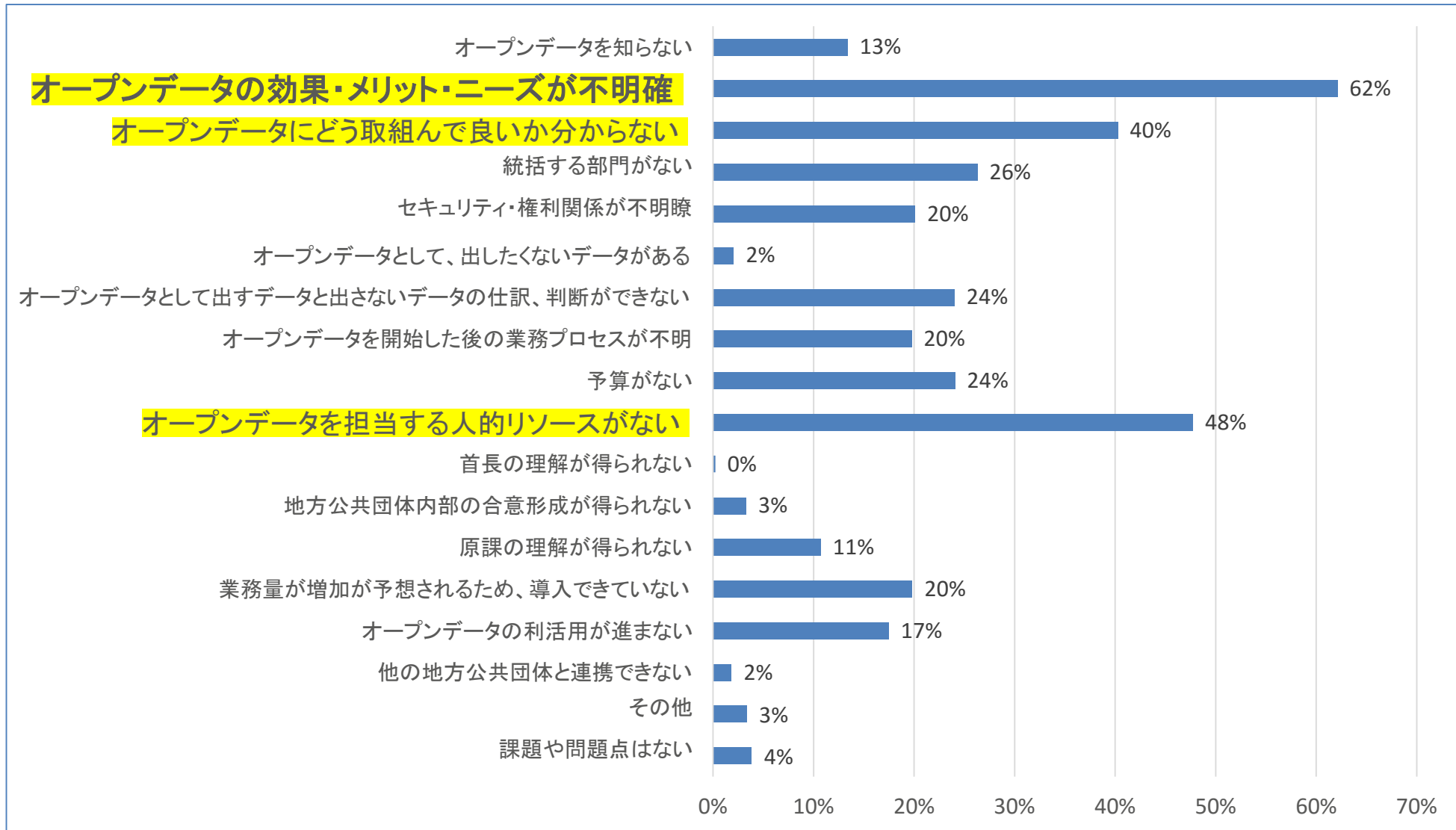
# オープンデータの取組状況に関する内閣調査 2016年末

認知度	自治体数	%
良く知っている	489	27%
知っているが詳細は分からない	901	51%
名前は知っている	304	17%
知らない	94	5%
計	1788	100%

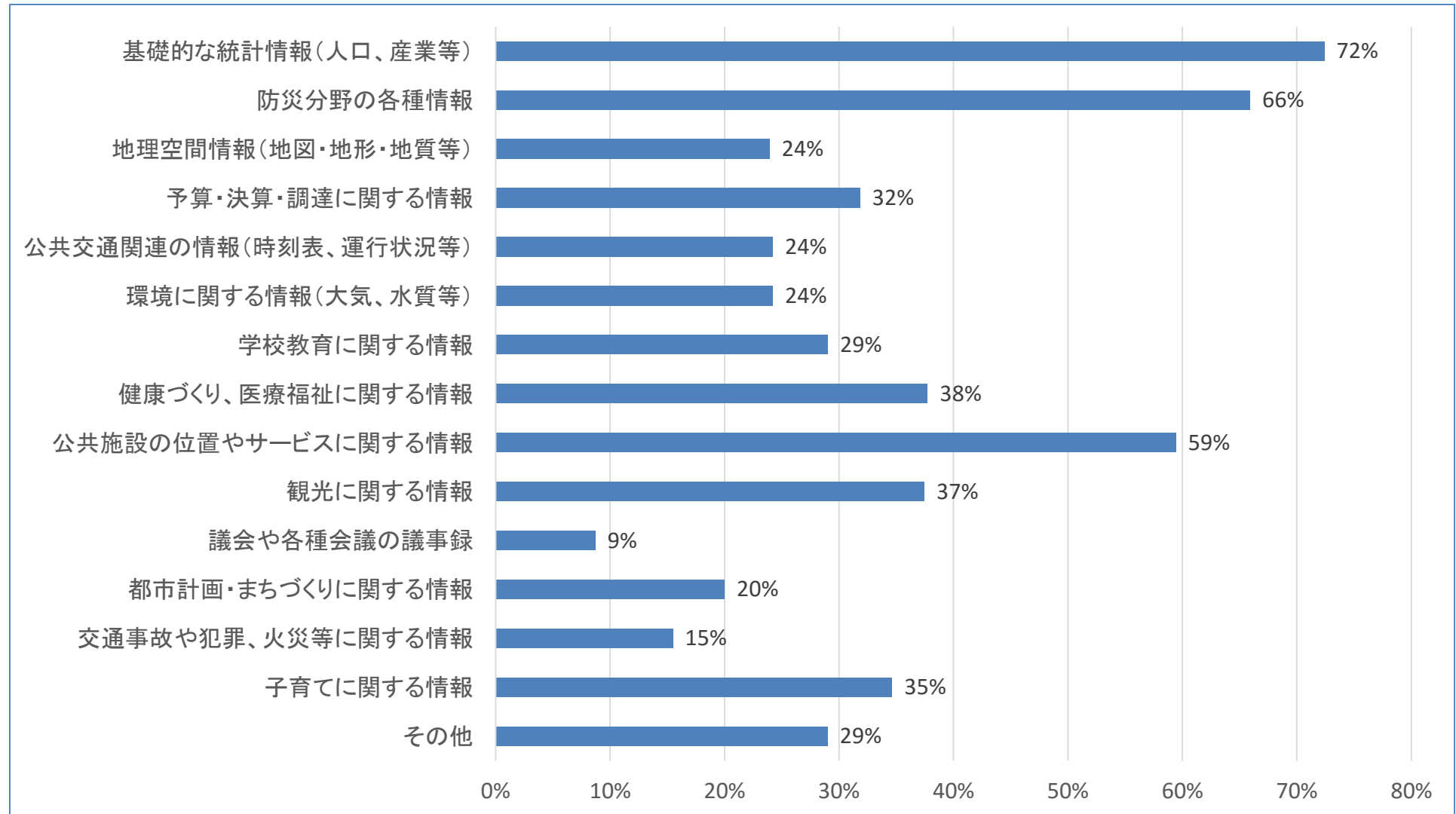
# 取組状況

取組状況	自治体数	%
自自治体のHPやポータルサイトで公開中	245	14%
複数自治体共同で作成したHPやポータルサイトで公開中	20	1%
都道府県のHPやポータルサイトで公開中	68	4%
公開中計	333	19%
自自治体のHPやポータルサイトで公開を計画中	148	8%
複数自治体共同で作成したHPやポータルサイトで公開を計画中	30	2%
都道府県のHPやポータルサイトで公開を計画中	55	3%
公開計画中計	233	13%
未公開（計画なし）	1219	68%
計	1785	100%

# オープンデータに取り組む課題や問題点



# オープンデータの分野



# 都道府県・市町村官民データ活用推進計画 (手引き)

2017年10月10日

- 以下の取組を通じて官民データの利用環境の整備促進を図り、事務負担の軽減、地域課題の解決、住民及び事業者の利便性向上等に寄与することを目的。
  - 「手続における情報通信の技術の利用等に係る取組」
  - 「官民データの容易な利用等に係る取組」
  - 「個人番号カードの普及及び活用に係る取組」
  - 「利用の機会等の格差の是正に係る取組」
  - 「情報システムに係る規格の整備及び互換性の確保等に係る取組」
- また、官民データの活用により得られた統計や業務データなどの客観的な証拠に基づき、政策や施策の企画及び立案が行われること（EBPM：Evidence Based Policy Making）による効果、効率的な行政の推進や全ての国民がIT 利活用やデータ利活用を意識せずその便益を享受し、真に豊かさを実感できる社会「官民データ利活用社会」の実現も期待。
- **地方の特性や実情に合わせて、本手引で紹介した施策から必要に応じ任意に選定して取り組んでいただける（スモールスタート）ことを期待。**

# 計画の策定及び推進体制

- 都道府県・市町村官民データ活用推進計画の策定に当たっては、情報部門だけでなく、都道府県・市町村の総合計画といった全体ビジョンの構築を担う企画部門や、様々な部署との協力が必要なことから、庁内部署横断的な体制での取り組みを推奨。

- <http://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/20171010/todouhukenhinagata.pdf>
- <https://www.kantei.go.jp/jp/singi/it2/kettei/pdf/20171010/sityousonhinagata.pdf>



# 地方の官民データ活用推進計画に関する委員会

**【会長】 國領 二郎 慶應義塾大学総合政策学部教授**

**【委員（五十音順）】**

- **伊藤 元規 ITbook 株式会社代表取締役社長**
- **杉山 隆通 静岡県経営管理部情報統計局情報政策課長**
- **田中 照敏 高松市総務局 情報政策課ICT 推進室長**
- **中村 敦哉 札幌市まちづくり政策局政策企画部ICT 戦略推進担当課長**
- **林 令子 徳島県政策創造部統計データ課長**
- **百武 芳和 多久市情報課長**
- **宮崎 郁 横浜市政策局政策課データ活用推進等担当課長**
- **村山 一郎 箱根町企画観光部企画課長**
- **安井 秀行 NPO 団体アスコエ代表**
- **山澤 浩幸 三条市総務部情報管理課長**
- **吉本 明平 一般財団法人全国地域情報化推進協会企画部担当部長**

# オープンデータの課題

## 行政

- 外部からのやらされ感がある！
- 現在でも忙しい！
- 街のエンジニアのためにやるの？
- 一部の人には熱心だが広がりが少ない！

## エンジニア

- ビジネスチャンスがあるの？
- 市場は小さいし行政がアプリを買ってくれればよいが、。。
- 財政難でそれも色よい返事がない、。

## 市民

- オープンデータだけでは使えない！
- エンジニアの話でしょ？
- 専門知識がいりそう？？

# オープンデータからオープンガバナンスへ

## Data-Design-Digital Driven地域コミュニティづくり

### 行政

- 仕事にオープンデータを使ってみる



- 施策の改善に役立つことを知る



- 同時に人の行動を知る(design)

### TEC人材

- もっと市民に近づく



- データの翻訳者になる



- 同時に人の行動を知る(design)

### 市民

- 地域課題を自分ごとにする



- データになじめるようになる



- UXの解決策もわいてくる(design)

# オープンガバナンスの背景3: 日本の行政と市民の関係の変化の兆し

# 3つの変化の兆し

- **地方自治体レベルで市民参加・協働の推進**
  - 住民自治基本条例、市民参加条例、市民協働条例、市民主体条例など
- **阪神淡路大震災以降の災害対策やNPOの成長による公共サービスの担い手の拡大**
  - 自助・共助・公助
- **「国・行政のあり方に関する懇談会」（内閣官房行政改革推進本部事務局）2014年**
  - 民主党政権時代の「新しい公共」

# 希望の17か条

- 1 国にしか担えない領域は何か（あれかこれかの優先順位）
- 2 担うべき新たな役割
- 3 「組むこと」で課題解決
- 4 「永遠のβ版」的発想を導入
- 5 開かれたパブリック
- 6 オープンかつ科学的に政策をデザイン
- 7 霞ヶ関にチェンジメーカーを増やそう
- 8 加わらない・加われない人々
- 9 一人ひとりがリスクを自覚
- 10 行政が考える機会を奪っていないか
- 11 人とつながり「重なる」こと（「ドーナツ型」の発想）
- 12 社会課題の解決に参加
- 13 家族の枠を超えた支え合いの加速
- 14 社会の要請と自分たちがやりたいことを重ねる
- 15 システムやデザインの工夫で社会課題を解決
- 16 100年後の未来を一緒に話そう
- 17 自立した参加型の社会

# 市民行政関係の課題

## 行政

- 条例は作ったが？
- 協働のための協働になっていないか？
- オープンデータと同じで全国的な広がりはどうか？

## エンジニア

- 関与することは少ない？

## 市民

- 一部のNPO活動で普通の市民は無関係？

# 市民行政関係からもオープンガバナンスへ Data-Design-Digital Driven地域コミュニティづくり

## 行政

- データ提供に力を入れる
- 市民と協働して行政サービスを改善する
- 市民でできることは行政がサポート役にとどめる

## エンジニア

- もっと公共圏改革に技術を使う

## 市民

- ユーザー目線を主体にして進める
- データを見ながらの科学的アプローチを身につける
- 市民でできることは市民がやる



# COG2017 スタート！！

チャレンジ!!オープンガバナンス

# COG

STEP1  
参加自治体  
募集中

応募締め切り  
8月31日

データを活用し、地域課題を解決するコンテスト

## 2017

- ・COG総合賞
- ・アイデア賞
- ・連携体制賞
- ・ACN学生賞

主催:東京大学公共政策大学院「情報通信技術と行政」研究プログラム (PadIT)  
共催:東京大学グローバル・クリエイティブ・リーダーシップ育成プログラム (GCL)  
連携:ハーバード大学 ケネディスクール アッシュセンター

- ・最終公開審査対象  
のフォローアップ
- ・1年後
- ・2年後

# 市民も変わる、行政も変わる!! オープンガバナンス

## COGのモットー

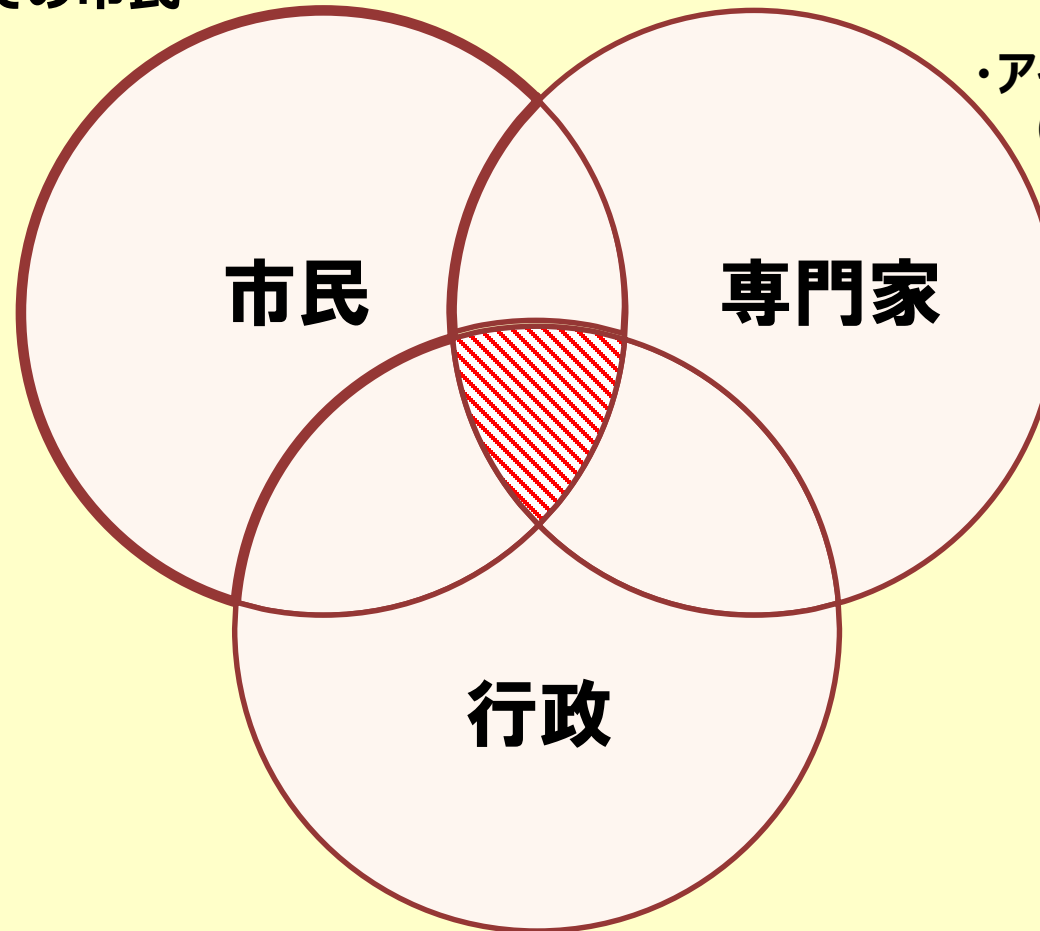
- 市民も変わる** : **地域の課題の解決に自分の問題として取り組む市民が増えています**  
(Engaged citizen)
- 学生も変わる** : **市民参加型社会を担う未来の市民に自らを磨く学生が増えています**  
(Next citizen)
- 行政も変わる** : **知識と経験を活かして市民参加型社会のプラットフォームとなります**  
(Open government)

**COGはこうした未来志向の市民や学生と自治体に**  
**データを活用して地域課題の解決にチャレンジする機会を提供します**  
**永遠のベータ版です！！**

# オープンガバナンスのプレイヤーたち

## ・アイデアのけん引役としての市民

- ・アイデアの発案者としての市民
- ・アイデアの受け手としての市民
- +
- ・アイデアの実行者としての市民



- ・アイデア発案・実現サポート専門家  
(TEC, 分野専門家など必要に応じ)

- ・データ提供、知識提供、場の提供  
によるプラットフォーム機能

# COGのステップ

## STEP1

### 自治体からの課題募集 (2017年6月～8月31日)

- 全国の地方自治体から、市民／学生に解決してほしい地域課題を募集します。
- データを活用した新しい課題の分析や解決策に期待を寄せている自治体の方はぜひご応募ください。
- 2016実績
- 応募自治体31、課題数53

## STEP2

### 市民／学生の解決アイデア募集 (2017年9月中旬～12月20日)

- 市民／学生の方々から、自治体からの課題に対する解決アイデアを募集します。
- データを活用して課題を掘り下げ、自分たちで解決策に取り組みたい方のご応募をお待ちしております。
- 応募アイデア数 68
  - 市民26、学生25、混成17

## STEP3

### 審査と改善アドバイス (2018年1月～4月)

- 応募アイデアそのものに加え、市民／学生と自治体の連携体制も加味して審査します。
- 最終公開審査(3月)まで残ったチームには、委員会からの改善アドバイスがあります。
- 最終公開審査 13
- ミニプレゼン 7
- ポスター 27
- 原則全てアイデア公開

- オープンガバナンス総合賞(アイデア + 連携体制)
- アイデア賞 (市民／学生)
- 連携体制賞(自治体)
- Accenture Citizen First Youth 賞(学生)

来年3月4日公開審査イベント

# STEP1

自治体が以下の大ぐりから課題選定

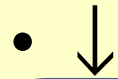
1. 高齢化・介護・医療・健康
2. 子育て・家族・教育
3. まちづくり・交通
4. 環境・エネルギー
5. 防災・防犯
6. 産業振興（一次、二次、三次）
7. 地域プロモーション
8. 観光
9. その他

詳しくは[COG2017](#)サイトをどうぞ

- ・ 関連データは、自治体データベースに格納のものを利用します（紙文書指定でも可能）
- ・ オープンデータ形式に限定しません
- ・ 課題の担当部署が市民とともに積極的に課題を解決するオープンな行政スタイルを指向
- ・ 課題の担当部署の職員と課題関連データ担当部署の職員によるチームとして応募
- ・ 企画・広報・市民やデータ部門などの関連部署の職員が取りまとめ役として参加
  - ・ 自治体の状況によるので必然ではありませんが庁内の連携状況として評価
- ・ COG2016の応募自治体も募集できます

# STEP2

- 地域課題と関連データ（オープンデータに限定せず） 自治体（夏）

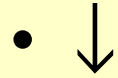


- **アイデアづくり 市民／学生チーム（秋）**

- **アイデア ①内容、②理由（データ<sup>1</sup>と<sup>2</sup>で裏付け）、③実現プロセス**

- **自治体連携状況 ①データ<sup>2</sup>提供、②知識提供、③コミュニケーション**

- **応募 市民／学生チーム**



- **公開審査（冬）**

データの種類 1 = Thick Data、2 = 主にThin Data  
Thick Data: 人間の行動のなぜを知るデータ  
人の行動観察(エスノグラフィー)  
Thin Data: 人間に限らず事実を知るデータ  
統計やBig Dataなどから知る事実

# 応募の市民／学生チーム

- 応募自治体に住む、あるいは通う、もしくは課題解決に強い熱意があるなどの何らかの形で地域に縁を持ち、
- 住民目線で地域課題の解決に貢献したいと考える市民や学生のチーム
- チームのリーダーは、応募自治体に住む、あるいは通う条件を満たしている必要があります

# STEP3

## アイデアの審査

- **アイデアの応募提出書類**
  - アイデアの説明（内容、データを用いた論拠、実現プロセスなど）を重視
  - そのほか①焦点、②効果、③新規性、④展開性などについてもごく簡潔にアピール
  - 詳細は9月に公開する市民／学生の応募用紙で確認
- **最終公開審査での発表（市民／学生チーム パワーポイント使用）**

## 連携体制の審査

- 課題関連データ公開提供（問い合わせへの対応なども含む）
- アイデアが形成される際の、自治体による市民／学生の主体的な取り組みへのサポート
- アイデアが成熟し、実施に移行する際、自治体が市民／学生らとの協働
- アイデアをめぐって、市民／学生と自治体の間でオープンなコミュニケーションの場の活用の状況
  
- <最終公開審査対象チームについて>
- 市民／学生とその自治体を対象に追加調査
- 最終公開審査での発表（関係自治体 パワーポイント使用）



# 最終公開審査対象のフォローアップ

- **最終公開審査対象となったアイデア（連携が進んでいる場合はその状況も含みます）については、それが実り、地域の課題解決への貢献を期待**
- **このため、一年後、二年後にその進化のプロセス、実施のプロセスの報告と公開**
- **適宜伴走も視野**

# 審査委員（委員長以下は50音順、敬称略）

- 城山英明 東京大学公共政策大学院・大学院法学政治学研究科教授（委員長）
  - 宇野重規 東京大学社会科学研究所教授
  - 大橋 弘 東京大学大学院経済学研究科教授
  - 川島宏一 筑波大学システム情報系社会工学域教授
  - 国谷裕子 元NHKクローズアップ現代キャスター
  - 坂井修一 東京大学大学院学情報理工学系研究科教授
  - 庄司昌彦 国際大学GLOCOM准教授
  - 関本義秀 東京大学生産技術研究所人間・社会系部門 准教授
  - 林 千晶 MITメディアラボ所長補佐
  - 渡辺美智子 慶応大学大学院健康マネジメント研究科教授（専門：統計科学）
- 運営コーディネーター：奥村裕一（東京大学公共政策大学院客員教授）

# 期待しているアイデア

- 課題解決につながる社会的な公共サービス（公共的活動）のアイデア
- 公共サービスといっても陳情や行政への単なるつけまわしではなく自分ごととして取り組む公共サービスを期待

- データを利用するアプリが実現手段として含まれることはあり

アイデアの分類	社会的ソリューション（活動）	アプリ開発・利用（実現手段）
A	○	-
B	○	△
C	○	○
D	△	○

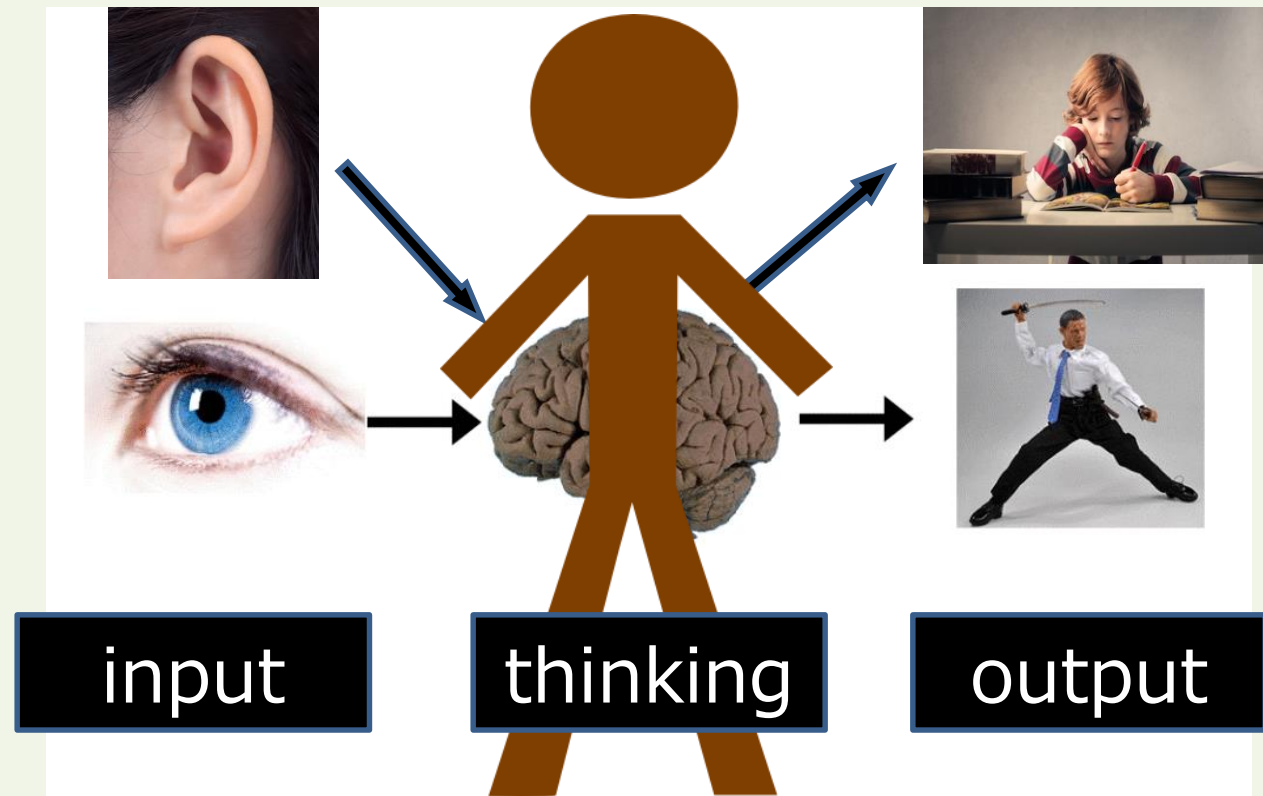
# ＜データの利用形態とデータの種類＞

- データの利用は一般に、課題の分析に使う場合とアプリの入力に使う場合があります。このコンテストでは公開データ（資料を含む）の利用であればよく、オープンデータに限ったものではありません。なおオープンデータはデジタル時代の機械判読に適したデータ形式（例:TXTやCSVなど）で公開されていてアプリの入力に適しているデータです。
- 一方、社会の実相を知るデータには二種類あって、社会の事実を知る「薄いデータ」～thin dataとその事実をもたらしている文脈や背景を知る「厚いデータ」～thick dataがあります。これらのデータをうまく使って課題分析やアイデア出しに活用してください。

社会の事実を知る「薄いデータ」	その文脈や背景を知る「厚いデータ」
<ul style="list-style-type: none"><li>• 統計</li><li>• 施設の情報（位置、規模など）</li><li>• ビッグデータなど</li></ul>	アンケートやインタビュー、ワークショップなどにより事実をもたらしている文脈や背景を知ることができる記録や資料

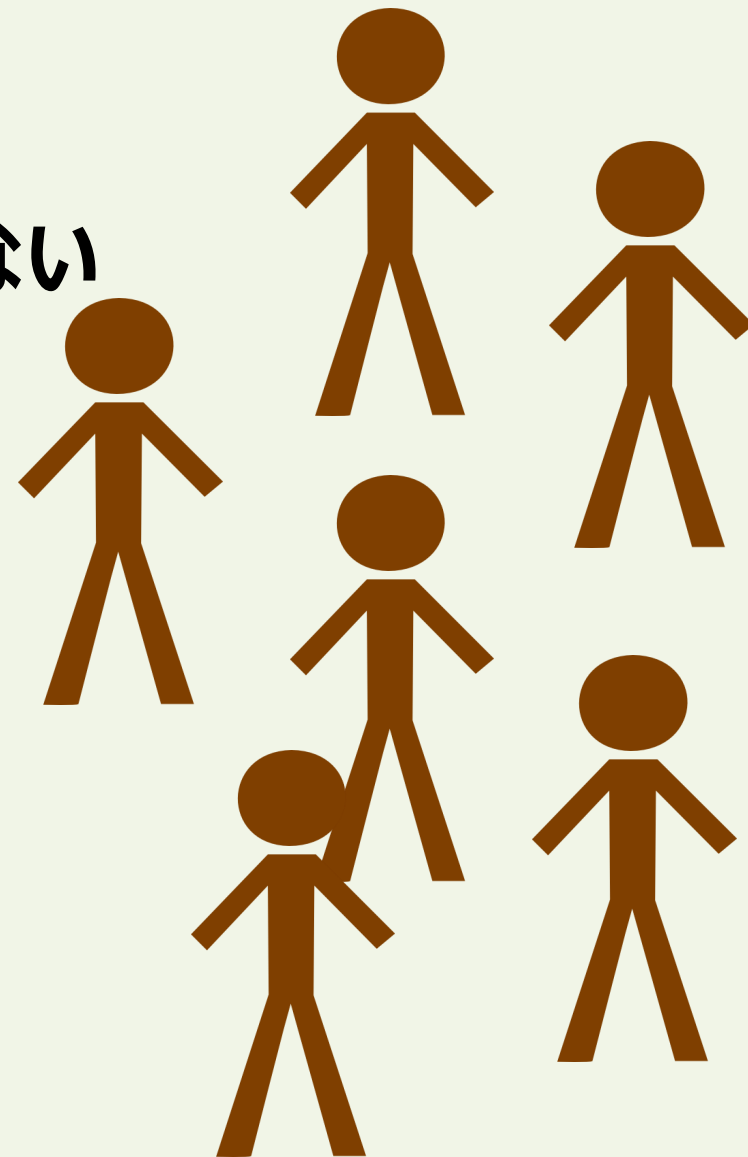
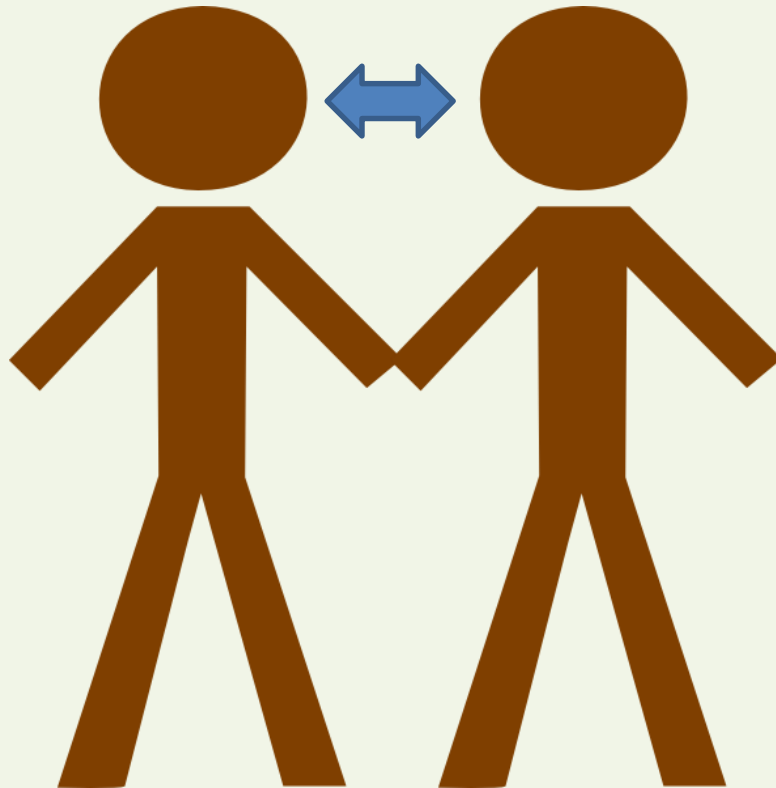
# データがないと何も始まらない

- データは人間の思考の栄養素



# 個人⇒複数⇒社会 データ交換・共有

- データ交換・共有がないと社会は成り立たない



# データとは

- 意思決定を助けるために、チェックし考慮し使用するために収集された情報、特に事実または数値をいう；またはコンピュータによって保存され使用される電子形式の情報のこと
  - ケンブリッジ英語辞書より
- information, especially facts or numbers, collected to be examined and considered and used to help decision-making, or information in an electronic form that can be stored and used by a computer:
  - <http://dictionary.cambridge.org/dictionary/english/data>

# 社会の実相を知るデータ

## 社会の事実を知る「薄いデータ」

- 統計
  - 人口、経済、社会
- 施設情報（位置、規模など）
- ビッグデータ
- 人の表情
- 社会の実相に影響する自然の事実

## 文脈や背景を知る「厚いデータ」

- 事実をもたらしている文脈や背景を知ることができる記録や資料
  - アンケート
  - インタビュー
  - ワークショップなどで
  - 人の行動の背景を知る



# 社会の実相を知るデータ（例）

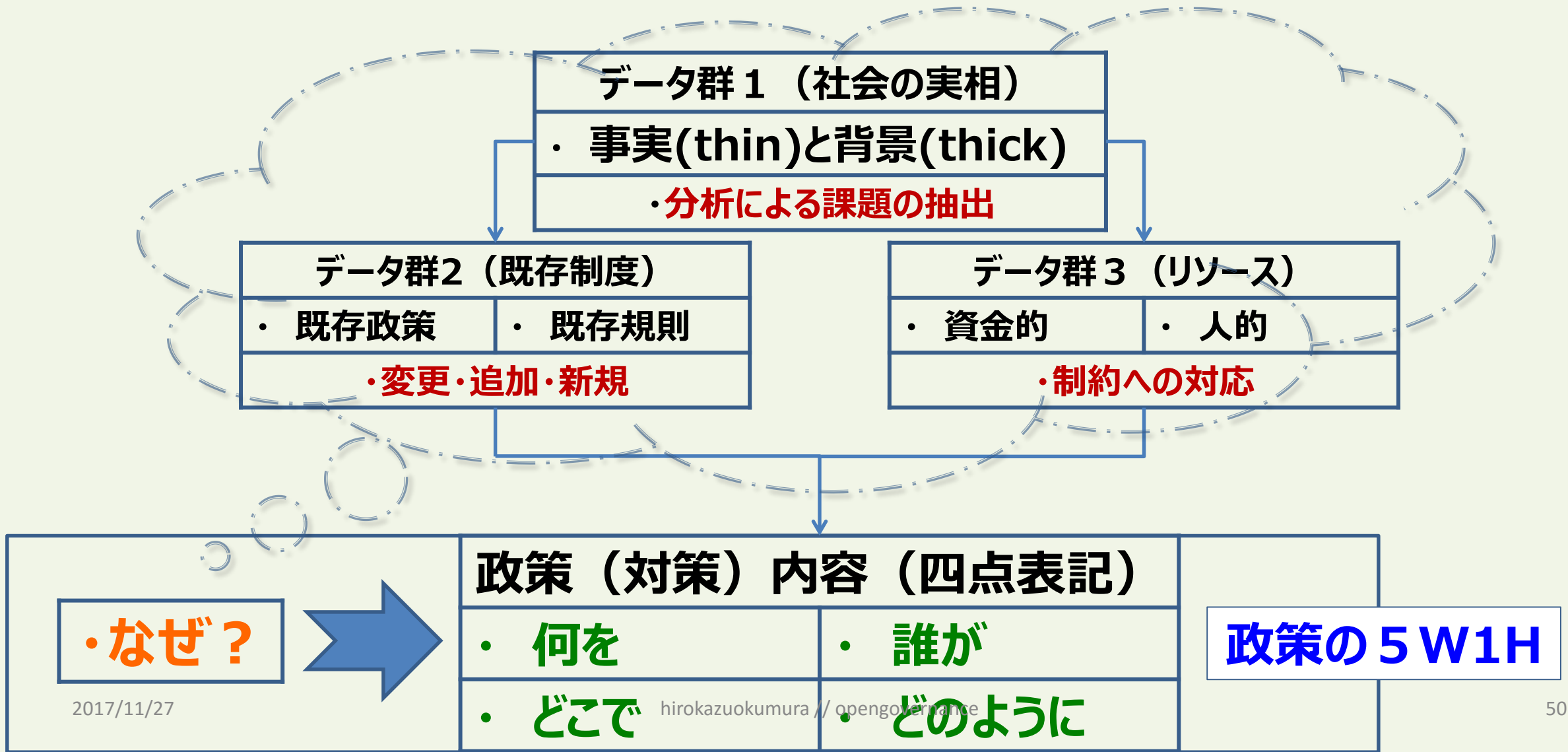
## 社会の事実を知る「薄いデータ」

- ウィンク
- 街の人口減少

## 文脈や背景を知る「厚いデータ」

- 愛のしるしか 暗号のしるしか
- 自然減か 移動減か
  - なぜ自然減が起きたのか
    - 死亡増か 出産減か
      - なぜ出産減が起きたのか
- なぜの繰り返しで真因に迫る
  - 感情、価値、本音、知恵

# 社会の実相以外にもデータはいろいろ データがサポートする政策（アイデア）の論拠（なぜ）



## <デザイン思考>

- 建物、都市、製品、ポスター、ウェブサイトといった「モノ」を作るとき、人々は伝統的に「モノ」の出来上がった姿、例えば設計図や模型を見て繰り返して手を入れ修正し、使い勝手や印象を判断して、使う人にとってより共感できる「モノ」を作ろうとしてきました。
- この手法を「モノ」に限らず、サービスに生かして、人にとってより共感の得られるサービスをデザインするという進め方をデザイン思考といいます。デザイン思考は平たくいえば「あるといいね使っていいね思考」といい換えることができます。皆さんが地域課題の解決のアイデアを検討されるときにこのやり方を参考にしてアイデアが実現した時にそれを利用する人に共感の得られるアイデアを練ってください。

# デザイン思考の基盤

ユーザー目線

1. 人間を観察する（課題を深掘りする）
  - ・ ユーザーに徹底的に焦点・共感・本質
2. 将来こうありたい・したい（仮説を立てて創る）
  - ・ 課題解決のアイデアをいろいろ考える

提供者目線

3. アイデアを提供する側の視点での課題に挑戦
  - ・ お金はまわる？ 体制は？ できるだけ自分でやる！

4. 繰り返していい（ループバック）
5. 一緒に、、する（CO-）

(参考4)

# 市民自身の目線で出発 専門家はサポート役

まずはユーザー目線で構想  
着実な夢から出発する

供給者目線で実現チェック  
良い夢なら制約にも挑戦



Thick Data

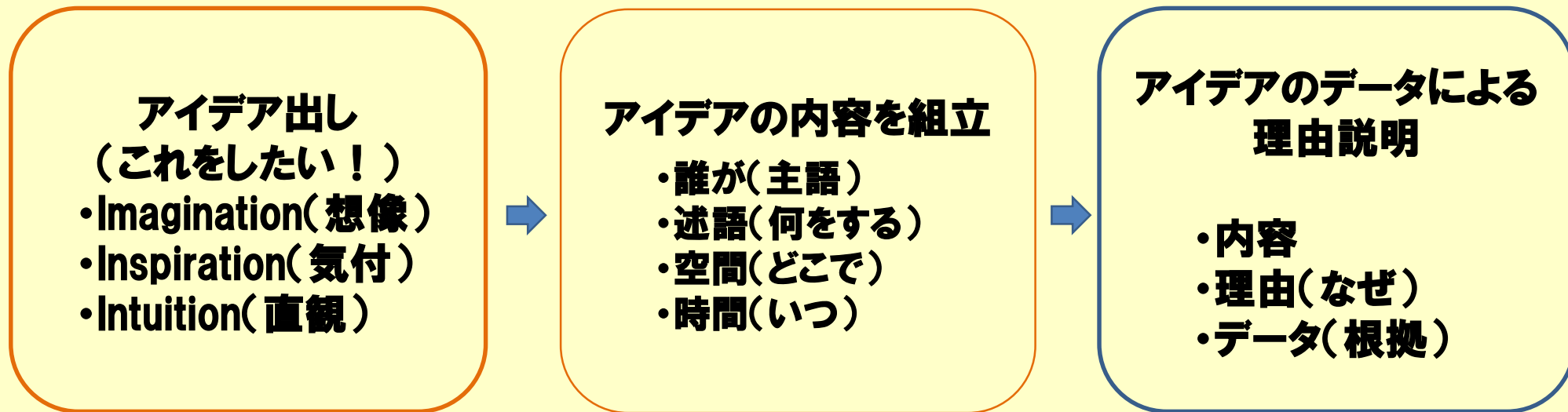
Thin Data

アイデア

プロジェクト化

自治体のポジション

# 最初のアイデア出しは 3 I で！！



速い思考

<カーネマン>

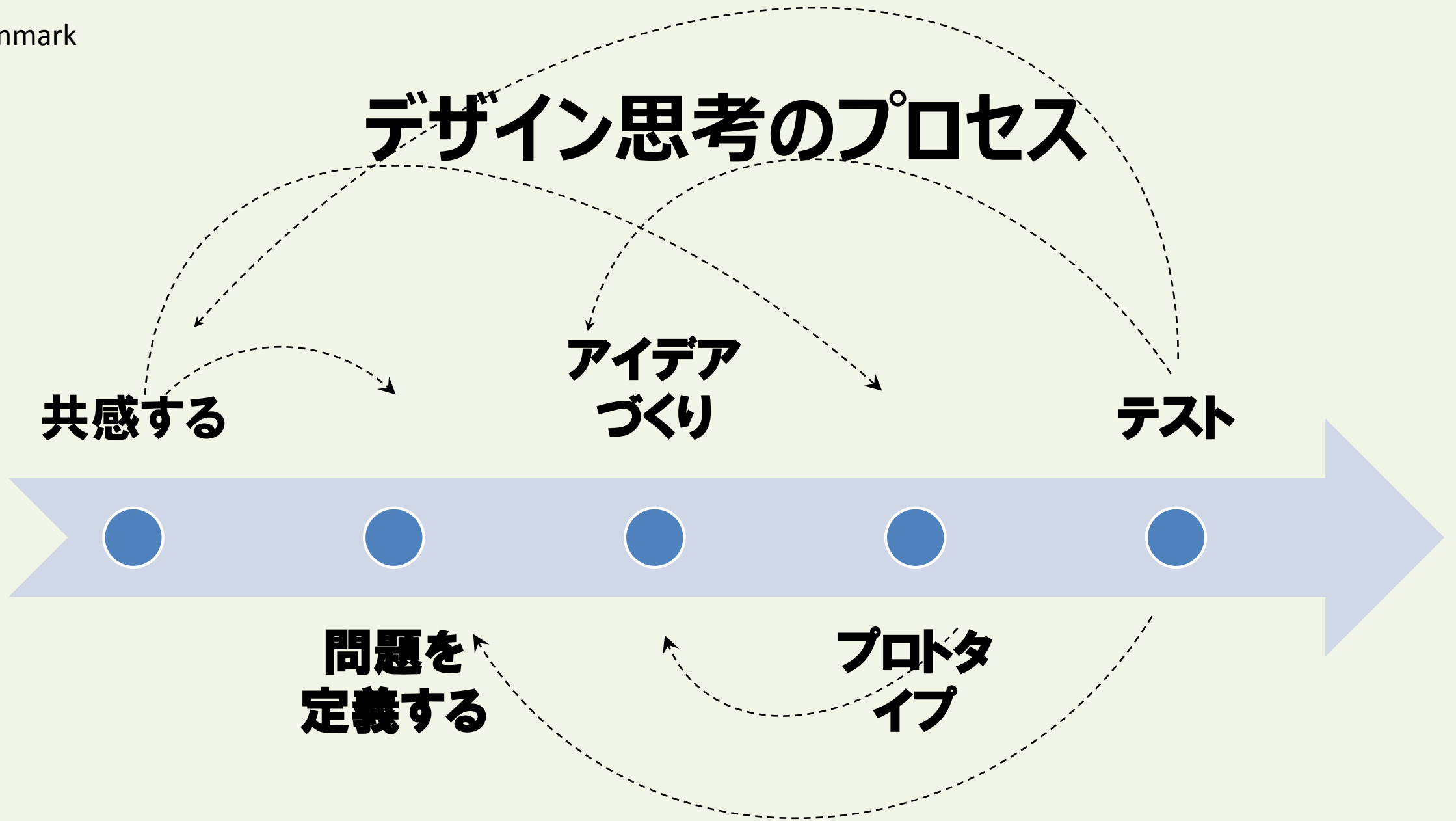
遅い思考

厚い

データ

薄い

# デザイン思考のプロセス



(厚いデータ)

事実の背景を知る記録や資料  
人の行動観察により収集

(参考3)

(薄いデータ)

事実を知るデータ  
統計やビッグデータなど

# COGアイデア考案から応募までのプロセス

デザイン  
思考

あるといいね  
使っていいね思考

論理思考

(厚いデータ)

人間観察による  
背景の発見

(薄いデータ)

データによる  
事実の発見

・アイデア出し  
・行き詰まったら  
ループバック

アイデアの潜在的利用者に共感

アイデアの練り上げ

<分析と合成と>

<分析と合成と>

問題を定義

内容・理由・実現プロセス整理  
ストーリーに仕上げる

・行き詰まったら  
ループバック

応募

両データで理由を語る

実現性チェック  
制度と資金・体制



# アイデア実現に向けての課題

- ① 実施体制      柔らかな市民グループのまとまりに必要なこと
- ② 資金的基礎      実現段階では避けて通れない基盤
- ③ アイデア磨き      「使っていいね」をさらによくする不断の努力
- ④ 制度の克服      ど真ん中のアイデアだけでなく周辺にも潜む
- ⑤ 以上を総合した持続的展開

# 連携体制

- 市民とどう手をつなげばよいのか vs 行政とどうつきあえばよいのか

- 組織文化の壁を破れるか

- 中央省庁との関係

できるところから両者のいいところ取りをし輪を広げる	
伝統的行政思考	デザイン思考
分業的	協働的
分析	統合
合理性重視	人の心重視
ロジカル	直観的
演繹的帰納的	仮説形成的
ソリューション	パラダイムシフト
法律/経済アプローチ	人間総合アプローチ

# (参考) 市民／学生と自治体の連携体制モデル (例)

協働の場の分類 (上のほうが市民関与度大)	<p>市民が設置した場で議論(※4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加市民は場の方針で選定</li> <li>・行政職員は聞き役として参加</li> <li>・舞台回しは市民</li> </ul>	<p>市民が設置した場で議論(※4)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加市民は無差別性基準で選定</li> <li>・行政職員も一専門家として議論に参加(※3)</li> <li>・舞台回しは市民</li> </ul>
	<p>市民と行政が協働で設計した場で議論(※1)(※2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加市民の選定は市民行政で合意</li> <li>・行政職員は聞き役として参加</li> <li>・舞台回しは市民行政協働</li> </ul>	<p>市民と行政が協働で設計した場で議論(※1)(※2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加市民の選定は市民行政が無差別性基準で合意</li> <li>・行政職員も一専門家として議論に参加(※3)</li> <li>・舞台回しは市民行政協働</li> </ul>
	<p>行政が設置した場で議論(※1)(※2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加市民は行政が一定の方針で選定</li> <li>・行政職員は聞き役として参加</li> <li>・舞台回しは行政職員</li> </ul>	<p>行政が設置した場で議論(※1)(※2)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加市民は行政が無差別性基準で選定</li> <li>・行政職員も一専門家として議論に参加(※3)</li> <li>・舞台回しは行政職員</li> </ul>
<p>協働の場での行政職員の参加度(右のほうが職員の議論参加度大)</p>		

※1 行政が設置した場より市民と行政が協働で設計した場

※2 一過性よりも継続性のある場

※3 市民も行政職員も対等平等の立場で発言できる場

※4 市民が設置する場は自由であるので、場の設置に行政が関与する場とは別にあつかう。  
ただし市民から要請があれば積極的に参加しているとよい

# COG2017エントリー自治体

## 2017年8月31日〆切

北海道 (1)	北海道室蘭市 ✓	中部 (2)	静岡県裾野市 ✓
東北 (3)	青森県八戸市 ✓		静岡県牧之原市 ✓
	宮城県仙台市 ✓	近畿 (7)	滋賀県近江八幡市
	福島県会津若松市 ✓		滋賀県草津市 ✓
関東 (8)	茨城県水戸市 ✓		滋賀県大津市 ✓
	千葉県流山市 ✓		京都府京都市 ✓
	東京都文京区 ✓		大阪府大阪市 ✓
	東京都中野区		大阪府枚方市 ✓
	神奈川県横浜市 ✓		兵庫県三田市 ✓
	神奈川県横浜市金沢区 ✓	中国 (1)	山口県宇部市 ✓
	神奈川県川崎市宮前区 ✓	四国 (2)	愛媛県松山市 ✓
	神奈川県鎌倉市 ✓		愛媛県八幡浜市
北陸 (3)	石川県金沢市 ✓	九州 (2)	佐賀県小城市
	福井県鯖江市 ✓		宮崎県日南市 ✓
	福井県越前市 ✓	計	29

室蘭市	室蘭に新たな観光客を呼び込むためのアイデア
	室蘭市民の健康増進につながるアイデア
	大学などの地域活動参加につながるアイデア
八戸市	人口減少社会における公共交通の利活用の可能性について
	データ活用による八戸市のプロモーションについて
仙台市	学生の地元定着の推進
会津若松市	車両走行データの活用
	食調査結果の活用による政策提言
	新たな観光政策の提言
水戸市	植物公園水戸 養命酒薬用ハーブ園の利用促進に向けたデータ利活用プロジェクト
	通勤を自家用車「以外」で実現する
	統計データを活用し、市民との地域課題の共有を図る
流山市	市民や企業などと共創しながら、街の魅力を他都市と比べて効果的に発信したい
文京区	新住民と旧住民の交流を促進し、FACE to FACEの関係へ
中野区	グローバル都市NAKANOの創造
	地域包括ケアシステムの推進
横浜市	シビックプライドの醸成
横浜市金沢区	子育て世代に選ばれるまち金沢の実現
川崎市宮前区	次世代までの安心につながるまちづくり ～日常的な困りごとを解消し、将来の不安も軽減する取組～
鎌倉市	「働くまち鎌倉」「住みたい・住み続けたいまち鎌倉」を実現する
	就労等を通じた、シニア世代のセカンドライフ充実について
金沢市	児童の長期休暇期間における子育て支援
鯖江市	市民の健康増進
	商店街の活性化
	障がい者に寄り添うオープンデータ活用

越前市	すくすく健やか 健康づくり
裾野市	人材不足！どうする？地域のICT技術者不足問題 ICTツールで地域交流・世代間交流を生みだせるのか？！
牧之原市	活力を高め、若者が魅力を感じる住環境や雇用・教育環境などを実現する 共に支え、安心して想いが表現できる地域社会をつくる
大津市	琵琶湖辺等への漂着する水草等の有効活用 文化活動を応援！ 大津文化コンシェルジュ
近江八幡市	JR安土駅前の魅力づくり
草津市	景観資源を観光資源として活かし、歩いて巡る草津を実現するために必要なこと
京都市	まち全体で子ども・若者をはぐくむ社会の実現に向けて 空き家など、既存の建築資源を活用した「安心安全で持続可能なまちづくり」 オープンデータと自転車をはじめとした観光資源の融合による持続可能な観光・交通を目指して
大阪市	地域コミュニティの活性化～人と人がつながり・支え合う地域づくり～
枚方市	マーケティングに基づいた、シティプロモーションやブランディングの推進
三田市	農村地域や、ニュータウンなど異なる地域の特性に応じた交通ネットワークの構築と外出支援のあり方について
宇部市	地域計画の推進につながるアイデア
松山市	災害時の要配慮者・避難行動要支援者の安全な避難誘導、福祉避難所への収容について
八幡浜市	「ピンチをチャンスに！」空き家・空き店舗を活用した移住定住促進事業 道の駅・みなとオアシス「八幡浜みなと」を起点とした、まちの回遊性・活性化の創出 公共空間を活用した、子どもや若者が活動できる「場」の創出
小城市	小城市のニーズに配慮した効率的なコミュニティバス路線の再編および各路線ごとの駅への乗り入れ
日南市	五感を楽しませる日南市生活文化・産業体験メニューの編集と充実 口コミ・SNS情報の展開

# あるといいね使っていいね デザイン思考

奥村 裕一

東京大学公共政策大学院

# オープンガバナンスの成功の秘訣

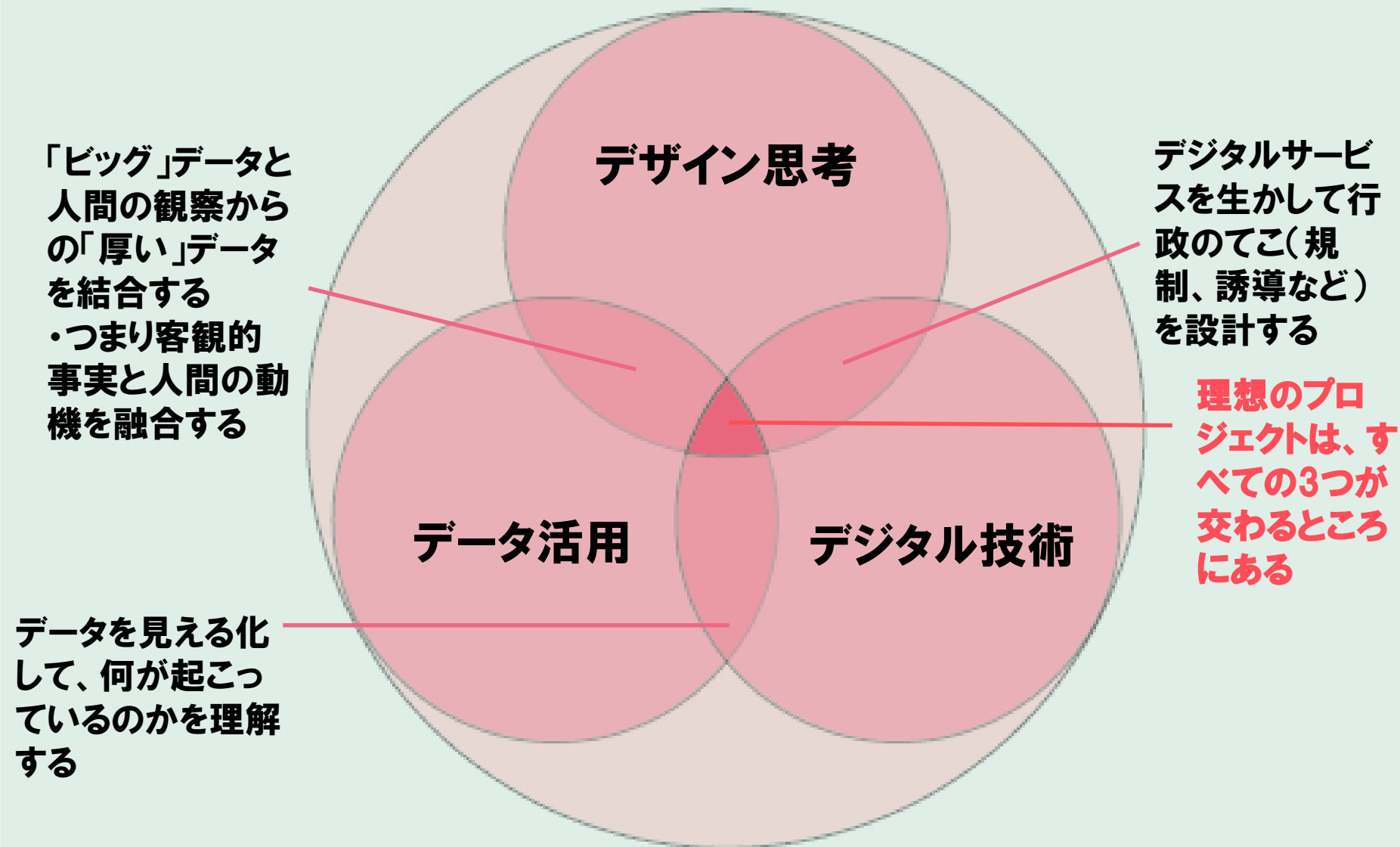
- 「しがらみ」から自由になる ⇒ データに聞くデザイン思考
  - 市民も
  - Civic Tec も
  - 行政も
- 市民が実行に挑戦する ⇒ 市民の自立への挑戦
  - 実施体制
  - お金 人 仕組
- 行政との連携
  - 行政のプラットフォーム化 ⇒ オープンデータと専門家としての知恵



# 政策向けデザインラボいくつか

分類	ラボ名	国	概要
政府	・ <a href="#">Mind Lab</a>	デンマーク	2002年設立 世界で最も古いラボの一つ。 三省で設立。中立の場の提供。市民・企業との接点。 18-20人のスタッフ。 デザイン指向中心。
	・ <a href="#">Policy Lab</a>	英国	2014年設立。 Civil Service Reform の一環でCabinetに設立。 7人のスタッフ。
	・ <a href="#">The Lab@OPM</a>	米国	2012年設立。 Food and Nutrition Services、USDAなどと連携。 中立の場の提供。
公益法人 ⇒独立	・ <a href="#">NESTA</a>	英国	設立は1998年。イノベーション推進。 最近にいたりデザイン思考導入。

# 政策形成の3D



# 三つの認知システム

	知覚	直感(システム1)	理由づけ(システム2)
プロセス		速い (ファスト) 並行的 自動的 簡単 連想的 遅い学習速度 感情的	遅い (スロー) 直列的 制御 努力必要 規則による統制 柔軟 中立的
内容	知覚表象 現在の刺激 刺激に制約される	概念表現 過去、現在、未来 言語によって誘発することができる	

# 厚いデータ Thick Data と 薄いデータ Thin Data

Thick Data (定性データ)

- 人間の行動のなぜを知る
- ↑
- Thick description(1973)
  - C. Geertz
- 文化人類学
  - 文脈の中でデータが意味をもつ
  - ストーリーを語る

←

Thin Data(統計,ビッグデータ)

- 人間の行動の結果を知る

# 厚いデータの例

- (例) 「乳幼児を抱えるお母さんたちの『肉団子が美味しかったことに救われた』というような発言を、厚いデータとしてどう扱うか」
  - 母親の、「肉団子を食べる」、「美味しかった」→「救われた」の真の理由（なぜの追究）は多分、
    - ①肉団子を【主体的に選択して】食べることができた（いつもは時間に追われとりあえず口にできるものを食べている）
    - ②【自分の好きなもの】（肉団子）を食べることができた（同上）
    - ③【冷めていないもの】を食べることができた（同上）
    - ④【美味しい】と感覚することができた＝健康を実感
- から、感激して「救われた」という気持ちに至った、ということかも知れない
- →これを観察や質問で共感しながら確認修正→厚いデータ化（定性的でよい）
- ⇒行動の本質を知る
- 日々あわただしいお母さんたちをほっとさせる、快適にさせる、満足させる、のは、凝りに凝った“ママ向け企画”のようなものではなく、意外とシンプルなものかもしれない、...

# デザイン思考と政策形成プロセス

- ① 企画段階から実施までを視野に入れた政策を検討
- ② ユーザーの視点に立って徹底的に政策のアイデアを考える
- ③ ユーザーの表面的なニーズにとらわれずその裏にある本当の課題に迫る  
＜ユーザー目線②、③と供給者目線④、⑤は峻別して取組む＞
- ④ 政策提供者の立場で、その政策アイデアで財源や実施体制の課題をつぶしていく
- ⑤ その際、行政内の組織の壁や市民との壁を越えた協働や対応に果敢に取り組む
- ⑥ 政策の素案をユーザーと繰り返して試しながらそれを修正

データには統計などの薄いデータと人間行動の背景がわかる厚いデータを使う  
その政策が必要な理由の説明には、裏付けとなる根拠データを組み入れる

# お試し政策デザイン思考

- A地域に観光に行きたい方（Aスキー（仮名）さん）がいます
- その人のペルソナを作ってみましょう
  - 年齢 家族構成 住所 性別 日ごろの生活
- その人のカスタマージャーニーマップを描いてみましょう
  - いつ誰と観光に来たいか 交通は そのA地域での観光は など
  - Aスキーさんにとって何が欲しい すぐ手に入る？
- データ：

# デザイン思考と政策形成

- ① 企画段階から実施までを視野に入れた政策を検討
  - ② ユーザーの視点に立って徹底的に政策のアイデアを考える
  - ③ ユーザーの表面的なニーズにとらわれずその裏にある本当の課題に迫る
- ＜ユーザー目線②、③と供給者目線④、⑤は峻別して取組む＞
- ④ 政策提供者の立場で、その政策アイデアで財源や実施体制の課題をつぶしていく
  - ⑤ その際、行政内の組織の壁や市民との壁を越えた協働や対応に果敢に取り組む
  - ⑥ 政策の素案をユーザーと繰り返して試しながらそれを修正

データには統計などの薄いデータと人間行動の背景がわかる厚いデータを使う  
その政策が必要な理由の説明には、裏付けとなる根拠データを組み入れる



# (参考)イノベーションの源泉



- ☆ 既存の制度・慣習からいったん自由になる(外部環境からの自由)
  - ・法令のような公式制度(法律、政令、省令、規則)
  - ・慣習のような非公式制度
  - ・利害関係者の範囲
- ☆ 自分の専門分野から自由になる(内部環境からの自由)
  - ・あらゆるコト・モノ・世界、手始めにユーザーに関心を持つ
- ☆ 技術の持つ潜在力と限界の認識

参考

# COG2016実績

# COG2016応募結果概観

このコンテストに参加した市町村の数 = 31

ソリューションのアイデアを求める地域問題の数 = 53

市民からアイデアを受け取った市町村の数 = 28

市民からのアイデアを受けた地域問題の数 = 40

## <応募者数とチーム構成>

市民 = 26

市民と学生（混在） = 17

学生 = 25

合計 = 68

## <審査結果>

最終公開審査対象（ファイナリスト） = 13

セミファイナリスト = 7

ポスター展対象 = 27

全体 = 68

# 2017年3月12日最終公開審査の13チームの皆さん

地域	チーム名	アイデア名	属性
室蘭市	U-18 おもてなし室蘭(ACN学生賞)	旅人と地元民の心をつなぐ「おもてなしサロン」へようこそ	学生
松戸市	AAI	「演劇」と「リフレクション」で自分と相手を理解する	市民
東京都中野区	チャレンジ中野！ Grow Happy Family & Community (オープンガバナンス総合賞)	地域とつながる「子育て」&「里親制度」～ママからファミサポへ、ファミサポから里親へ～	市民
神奈川県	FerriSat (Ferris Security equipment Application Toothbrush)	目指せ犯罪ゼロ！住みやすい街 緑園都市一緑園の犯罪被害0を目指し、市民の力で安心安全なまちづくりを目指すー	混成
神奈川県	Singular Perturbations	「数理的犯罪予測を用いた警察・自治体向けパトロール経路提案システム」	市民
横浜市	花のいずみ野沿線組	相鉄いずみ野線沿線におけるシビックプライドの醸成とシティプロモーション(仮称)	混成
川崎市宮前区	みやまえ子育て応援だん(アイデア賞+ハーバード特別イノベーション賞)	「子育てにやさしいまちの空気」をつくる！～市民による市民・行政・企業三方ハッピープロジェクト～	市民
新潟市	Code for Niigata + 新潟大学・大串ゼミ(連携体制賞)	もっと知りたい地域のこと～協働で進める地域の情報発信のあり方～	混成
牧之原市	カタハマ・エージェント	アクションリサーチによる片浜小学校利活用の実現	混成
近江八幡市	立命館大学+近江八幡商工会議所	近江八幡「世界の中心で学ぶ～子供たちの夏休み寺子屋教室」プロジェクト	混成
神戸市	震災タイムスリップウォーク	震災非経験世代による語り継ぎ教育の導入と震災関連アーカイブの再構築	混成
生駒市	NAIST-UBI ParmoSense Developers	ParmoSense：観光客の「楽しい」をシェアするプラットフォーム	学生
福岡市	中村学園大学流通科学部 浅岡14B(3年)・15B(2年)ゼミ	唐人町商店街(福岡市)の活性化案：2つのStageによる取り組み	学生

# 母ちゃん立ち上がる！

普通の母ちゃんがどのようにして  
Engaged citizenになったのか？  
(なったのか？)

チャレンジ中野！ Grow Happy Family & Community  
代表 齋藤直巨

# 苦勞したこと

- やりたい事はあるが、どうすれば良いのか分からない！  
→ 誰にどんなことを頼めばいいのか、手探りでうまくいかなかった
- みんな忙しい
- データを使いこなせない（どうすればいいの？）
- いちいち緊張する



# 学んだこと

- 仲間を集める方法
- 妄想は大切！
- 中野区は素敵！
- データがあるからこそ、理解・共感しやすい  
→「ジブンゴト」に出来る環境を整える
- 足りない情報の補い方



# 今後の目標（妄想）

「助けて！」は「マネージメント」と考える社会へキャンペーン

■ PRしたいこと「里親も力になります！」

★力になる仲間のネットワーク作り

■ ロードマップ作りの勉強会

・実施体制の基礎となってくる人材も巻き込みながら、アイデア磨き！

■ 助成金申請

子育てのワンストップアプリを開発したい！





# COG 2 0 1 6 で中野区からの提供データ

COGのページに公開したもの

- 中野区の統計の総合ページ

最初に提供したデータ

- 東京都保健福祉局児童相談所事業概要のリンク（東京都HPのショートカット）

追加で提供したデータ

- ファミリーサポートセンターの協力会員、利用会員数

# 子育て中のママ達が主役！ 依頼や陳情から‘提案’へ

市民  
(ママ)

ハッピー!

(市民) 参加して楽しく支援！  
(ママ) 子育てにやさしい情報を知る！  
みんなに支えられ元気になり心地よい！

ハッピー!

市民や地元企業と一緒にママ達の  
‘心’を応援！  
地域の活性化と魅力  
発信！

行政



## みやまえ子育て応援だん

- ・子育て中のママ達を中心に、ボランティアで企画運営
- ・ママだからこそわかる困りごとを‘提案’し子育て支援を実現
- ・三方をつないでみんなハッピー！

企業  
店舗

ハッピー!

既にやっている子育て支援を  
見える化！  
ママ達の口コミで  
信用度が増す！

# COGに参加して良かったこと



**なんとなく、自分たちの感じていたことが、  
データで裏付けられた**

自分たちは  
このまま進ん  
でいいんだ！



**自分たちの育ててきたアイデアが、  
地域社会にどんな意味があるのか、  
自分たちの目標や活動の軸を  
再確認、再構築することができた**

受賞できたこと  
で、  
活動を進める自信  
がついた！！

更に！

## COGに参加して良かったこと

お店や施設をつなぐ活動そのものが、オープンデーに繋がっていることがわかった！

(私たちのつながりそのものが地域資源)

応募された団体との新しいつながりができた

オープン川崎  
の皆さんと  
連携開始！



オープンガバナンス2016連携体制賞事後報告抜粋

「チャレンジ!!オープンガバナンス2016」取り組みの振り返りとこれから  
(投影版)

阿部 由紀江 (新潟市)

2017年6月10日 「チャレンジ!!オープンガバナンス2017に向けて」 於 東京大学

# 1.はじめに

1. COG2016に、「都市の魅力発信」をテーマにCode for Niigata (C4N)と協働。**データ活用を軸**に、市民グループ (C4N・大串ゼミ)に**自主性**を発揮してもらい、行政は**データ提供**や**つなぎ役**に徹した。

「自主性」 → アプリ開発、ゼミでのワーク

「データ提供」 → 政令市120項目データの作成 「つなぎ役」 → 翻訳者

2. 【気づき】①多様なアクターが存在しそれぞれに目指す姿や課題がある、②地方創生とは人ひとりひとりを良くすること
3. 【課題】①アプリのオープンソース化 ②アプリの普及と評価 ③**市役所内の他部署への取り組みの水平展開** → ③は容易くない課題 どうすればよいか？を考える

## 3.市民・学生とのコミュニケーション（ふりかえり）

- サポート・コミュニケーションにおいて常に心掛けたこと

### 1.相手のフィールドに入っていく

市民/学生の主体性、のびのびとした自由な発想の妨げにならないように、普段どおりの場でコミュニケーションをとった。

### 2.ルールを敷かない

行政の手厚いお膳立てで進捗やすすむ方向をコントロールしたり、普段と違うことをお願いしたりすることをせず、主役を市民/学生とし、サポート役（意図を説明する、データを提供するなど）にまわった。

### 3.“つなぎ役”を頑張る

新しい協働相手と、新しい取り組みを始めるにあたり、互いの価値を理解してもらうために、市民と行政とを仲立ちする役割が重要。

→ 今後、庁内での水平展開へ

## 4. 市民と行政との“協働”とは？（COGはどこを目指すのか）

### 「協働の類型」

- COGが目指しているのはおそらく「テーマ型」
- 比較的新しい「市民参加型」協働は、一見「テーマ型」と見分けが付きにくい、行政のコントロールが強い点などが実は「テーマ型」とは真逆の性質を持つ
- 「テーマ別コミュニティ型」に似せた「市民参加型」になってしまっていないか？

	テーマ別コミュニティ型	市民参加型	地縁コミュニティ型
<b>事業の例</b>	•上位計画・施策に合致していることが前提の独自事業	•市民参画型WS (広聴的・事業は行政)	•防犯、環境美化など (労務提供型が多い)
<b>行政の関与</b>	<b>小 (多様・流動的)</b> •情報 (データ) ・機会の提供 • (場合によっては) 補助金	<b>大</b> •正規の事業として完了させることと成果の責任を負う	<b>中</b> •基本的枠組みとインセンティブの設定
<b>取り組みの性格</b>	• (基本的には) 市民が完全に主体的	•市民の考えを尊重 •着地点のコントロール	•ほぼ定型の労務 •団体の独自性も存在
<b>市民の動機の源泉</b>	自分達こそが課題を解決する (できる) という強い意思	関心、興味、行政との繋がり	公共心、地縁の役割、相互扶助
<b>行政の動機の源泉</b>	期待・殻を破り進化する →信頼感の醸成が重要	「市民の声を聴く・協働する」ことは“善”	コミュニティの良好な維持 (結果・参画そのもの)

※協働の3つの類型については、2004年7月のレポート「NPO & 政府 & 企業、協働の時代を考える」（㈱旭リサーチセンター）に先行研究あり



## 6.まとめと提案

- まとめ…「“オープンガバナンス”を理解（腹落ち）し実践するには課題が多い」
  - 事業完遂の責任感←→オープンであること、協働のパートナーたることへの意識の高まり
  - データ、見える化、ICTリテラシーの向上
  - 「自らの意欲と能力を発揮する」市民（グループ）の存在と相互信頼間の醸成
- 提案…“オープンガバナンス”実現に近づくために
  - 「公共」の再定義（行政の事業だけが公共的事業ではない）
    - 行政からの課題提示から出発しないCOGがあってもよいのではないか
  - 職員の能力開発（データ・情報をどう役立てるか）
    - データ活用の教育訓練メニュー、3Dモデルの普及啓発
  - 課題を解決する意欲と能力のある市民へのエンパワメント（活動支援、関与のしやすさ）
    - メニューはあるがあまり知られていない、気軽にチャレンジできない
    - 行政の既存メニューとCOGを相乗りさせる（市民協働部門へのアプローチ）

**東京大学公共政策大学院  
「情報通信技術と行政」研究プログラム(PadIT)  
COG2017事務局長 奥村裕一 作成**

2017年11月

『Service Design Impact Report : Public Sector (jp) 』日本語版 (full)

<https://www.service-design-network.org/chapters/sdn-japan/headlines/service-design-impact-report-public-sectorjpfull>